

連載 あるといい「防除の知恵袋」(5)

—生産者の視点で「いつ・何を・どれだけ」—

JA 全農 営農販売企画部 TAC 推進課 課長

宗 和弘(そう かずひろ)

はじめに

前回は、露地栽培の代表選手であるキャベツを題材にして、主にチョウ目害虫の発生様相に合わせて防除関連情報の提供が行われていることを示した。今回は、露地野菜でも、キャベツより栽培期間が長期に渡るネギを題材に検討を進めてみたい。

I 作物別面談数

平成25年4月～26年3月の1年間におけるTACの防除に関する面談記録のうち、作物が特定できるものを抽出すると7,762件で、そのうち葉菜類は2,906件37%であった。

そのうち、ネギは829件11%とキャベツに次いで多かった(表-1)。

II ネギにおける時期別防除関連面談の傾向

1 月別防除関連面談件数

ネギの防除に関する面談件数を、地区別、月別に集計してみた(図-1)。

年間を通じて見ると、他の作物と同様に病害虫の発生様相とリンクしており、8月に大きなピークがあった。地区別では、栽培面積の多い、関東、東北の順に多くの面談が認められた。

面談内容別の分析は後述するが、「速やかな防除」を促す面談は7月、8月に多かった。

一方で、他作物で農閑期に多かった「防除関連資料」の配布などは年間通じて行われており、ネギの栽培期間が長いことなどが影響しているのではないかと思われる。

2 病害虫別防除関連面談の傾向

面談記録のうち、対象病害虫が明らかになっている面談を仕分けてみると、病害では、べと病が59件44%、軟腐病が32件24%、白絹病が16件12%と多かった

(図-2)。

一方害虫では、ネギアザミウマが111件67%と圧倒的に多く、2番目のアブラムシ14件9%とは大きく離されていた(図-3)。

他の作物と同様に、商品価値に直接大きな影響を与える病害虫に生産者の関心が高いことがうかがわれた。

3 面談内容の再整理

これまで計4回にわたり、TACの面談記録の分析を試みてきたが、面談内容の分類の仕方に統一感がなかったことに気付いた。これは、できるだけ面談者の表現に近いところでの整理を心がけたためではあるが、全作物を通して分析する際に不都合である。

表-1 防除に関する面談抽出対象作物一覧

類名	件数	作物名	件数
果菜類	4,535	トマト	2,532
		キュウリ	456
		ナス	548
		ピーマン	188
		イチゴ	811
		葉菜類	2,906
ハクサイ	276		
レタス	240		
ハウレンソウ	68		
シュンギク	65		
オオバ	110		
コマツナ	32		
ネギ	829		
タマネギ	281		
根菜類	228	ダイコン	65
		ニンジン	40
		ジャガイモ	70
		サツマイモ	53
その他	93	トウモロコシ	93
計	7,762	計	7,762